

※読売新聞社より使用許諾済

※転載厳禁

※著作権の説明

<http://www.yomiuri.co.jp/policy/copyright/>

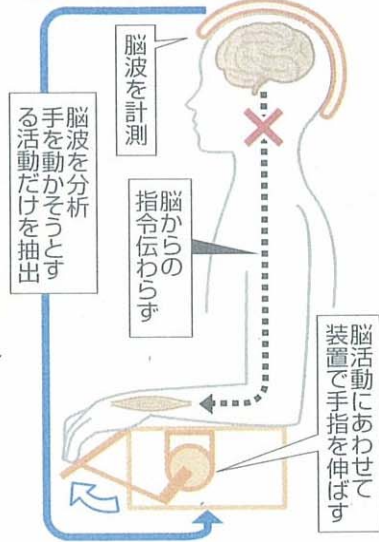
## 脳波伝えるコンピューターでリハビリ

# 脳卒中患者の手動いた

コンピューターなどを介して脳と機械を結び、相互に作用させる「BMI（ブレイン・マシン・インターフェース）」技術を、脳卒中で手足がまひした患者のリハビリに

がまひした患者のリハビリに  
応用し、効果をあげること  
に  
慶応大医学部と理工学部など

BMI技術を利用した  
脳卒中のリハビリ



の研究チームが成功した。新  
たなりハビリティ法として期待で  
きそうだ。16日から名古屋大  
で始まる日本神経科学大会で  
報告される。

脳卒中患者は、運動の指示  
を行う大脳皮質の運動野から  
の指令が、脊髄へ伝わる途中

### 慶大チーム成功

の神経回路に損傷があるため、筋肉に伝わらなくなり、まひした状態になっている。

研究チームは運動野自体の脳活動は残っているケースが多いことに着目。患者の運動野の脳波パターンを計測し、手を動かそうと考えた際の脳波が出た時だけ、まひした側の手につけた電動式の指伸展装置で手指を強制的に伸ばすリハビリを、2年以上左手がまひしている男性の慢性脳卒中患者4人に行った。

754か月訓練した結果、指の筋肉がまひしていた2人は筋活動が復活し、少し動くようになった。わずかに筋肉が動いていた他の2人は、神経回路が徐々に回復していることが確認された。